

単元名 相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
(2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
(3) 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、推薦する文章を書こうとする。

標準的な展開例

05010307_001

【教材名】 この本、おすすめします

(P. 206～P. 210)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★相手や目的を明確にして、推薦する文章を書こう。 ○好きな本について話し合う。</p> <p>○学習の進め方について確認する。</p> <p>2 推薦したい本を選び、推薦する文章の構成を考える。 推薦したい本を選び、推薦する文章の構成を考える。 ○推薦する本の内容や推薦する理由をまとめる。</p> <p>○構成を考える。</p> <p>3～4 推薦する文の下書きを書く。 ○構成を基に下書きを書く。</p> <p>○友達と読み合い、助言し合う。</p> <p>5～6 相手が読みやすい文章を考え、清書する。 ○下書きや友達の助言を基に清書する。</p> <p>○書いた文章を読み直す。</p> <p>7 推薦する文章を読み合い、学習を振り返る。 ○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・友達に本を薦めたり、薦められたりした経験についても触れる。 ・推薦する文章を書くことを示す。 ・知多の友(P. 51～52)を活用する。 ・推薦したい本を挙げさせた後、どんな人どんな本を推薦するかや、本の内容や推薦する理由を考えさせる。 ・知多の友(P. 53)を活用する。 ・一番伝えたい情報は何かを考えさせ、「すいせんする理由」や「よびかけ」の内容を考えさせる。 ・知多の友(P. 54)を活用する。 ・「相手にぴったりの本を伝える」という視点で下書きさせる。 【評】下書きを書く活動を通して、考えが伝わるように推薦する文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・読み手が読みやすい工夫がされているかという視点で助言させる。 ・知多の友(P. 55)を活用する。掲示する場合は別の紙に清書させる。 ・教科書(P. 209)を参考に、どこに何が書かれているか分かりやすいように工夫させる。 【評】助言を基に清書する活動を通して、自分の考えが伝わる書き方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 ・知多の友(P. 56)で観点を確かめさせながら読み直させる。 ・知多の友(P. 56～57)を活用する。 ・相手に合わせた書き方になっているかを中心に、感想を伝え合わせる。 【評】感想を伝え合う活動を通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 210)の「たいせつ」「いかそう」で身に付いた力を押さえる。

【 備 考 】